



一宮歩こう会 青春の東海道歩き

かわら版 00号

平成22年3月23日発行

13版

名古屋圏

地域 ◆ 20

京都・三条大橋から東京・日本橋まで400kmを3年がかりで歩く「一宮歩こう会主催の『青春の東海道歩き』が、27日に始まる。出発を前に16日、一宮市内で結団式が行われ、参加者はそろいの赤い帽子をかぶって健闘を誓い合った。

全行程を2区間に分け、ほぼ月1回のペースで西から東へ1区間ずつ距離を延ばしていく。1区間15〜20km程度。最後の2区間を除き白旗で、出発・到着地までの往復には出来る限り利便なJR青春18きっぷを利用するなど、体力と時間は使っても、お金はかけないという企画だ。

1月末に参加者の公募を始めたところ、申し込みの電話は鳴りやまず、1500人の集まりは予定を上回り、結局1700人が参加することになった。

平均65歳 青春の旅

【青春東海道歩き】結団式をきっかけに、読売新聞名古屋圏版に、一宮歩こう会が大きく紹介されました。ありがとうございます。

「東海道」3年踏破に挑戦



ウォーキングを楽しむ会員ら（一宮歩こう会提供）▼

一宮歩こう会

なった。年齢は46歳から78歳までで平均65歳。夫婦での参加が25組もあり、結団式で小畑敏之丞兵(70)は「ウォーキングは健康にいいだけでなく、夫婦円満にもつながります。歩く前から膝はどろどろしうかた夫婦の会話も生まれています。頑張ってください」と励ました。

途中で東海道五十三次の情



「達成感を味わって」

場跡や旧街道の風情を楽しめるのも魅力だ。参加者の一人、

3月に岐阜県で行われた「淡

大島忠敏さん(69)は「趣味で伊勢型舟をやっており、ちょっと広島の五十三次をやり始めたところ。広重が描いた風景と今の風景がどう違うか見ていきたい」と話す。

一宮歩こう会が結団したの

は1999年5月。その年の3月に岐阜県で行われた「淡路島」をめぐり、伊勢型舟をやっており、ちょっと広島の五十三次をやり始めたところ。広重が描いた風景と今の風景がどう違うか見ていきたい」と話す。

一宮歩こう会が結団したの

は1999年5月。その年の3月に岐阜県で行われた「淡路島」をめぐり、伊勢型舟をやっており、ちょっと広島の五十三次をやり始めたところ。広重が描いた風景と今の風景がどう違うか見ていきたい」と話す。

一宮歩こう会が結団したの

「扉をひらく」は今回で終わります。

(渡辺浩平)